

SPECIAL

脳神経センター

神経内科部長
脳神経センター長
田島 康敬



今年度、市立札幌病院の新たな取り組みとして神経内科、脳神経外科が担当する7階西病棟に脳神経センターが設立されました。今回この新しい脳神経センターについて紹介します。

脳神経センター設立の目的

我が国の社会問題として医師不足が大きく取り上げられるようになり数年がたちました。神経内科、脳神経外科もこの影響から逃れることはできず、診療の重責を担っていく優秀な人材が充分とは言えません。さらに医学は日々進歩し、これに伴い要求される診療レベルはますます高度になっています。そのような状況の中で、決して多くはない人員で、他のどの施設にも劣らない良質な医療を最も効率よく患者さんに提供すべく、脳神経センターが設立されました。

いまだ未解明の部分が多い脳疾患に、神経内科と脳神経外科がそれぞれの得意分野を生かしつつ、よりいっそう緊密に連携を取りながら診療を担当する部署が脳神経センターです。その結果、脳神経外科医は手術を含めた外科的治療により専念でき、内科的治療については、神経内科医が患者さんの内科疾患全般を含め担当するという事も可能となります。

脳神経センターの診療

スタートしたばかりの新体制ですので当面、それぞれの診療を今まで通り一つずつ確実にこなしていく事から、脳神経センターの足がためを行います。このなかで、神経内科、脳神経外科の両科にまたがる集学的治療が必要な患者さんに、十分な医療を提供します。その積み重ねから、私たちは経験を蓄積し、勉強していきます。

現在当院では、急性期脳卒中でのt-PA血栓溶解療法や血管内治療、悪性腫瘍に伴う脳神経症状の外科的病理組織学的診断と治療、パーキンソン病と正常圧水頭症との鑑別と専門的治療、外科的処置で回復する可能性のある高次脳機能障害の鑑別とその治療、などといった疾患に対しては、十分に経験がありチームワークよく対応可能です。将来的には、神経内科疾患に対する機能的脳神経外科治療、脳機能回復のためのマシーンインターフェイスなど、新たな治療にも取り組める体制作りを考えています。

なお、神経内科のチームには、脳神経外科でも研修を行い、国内の脳血管障害センターで研鑽を積んだ神経内科指導医が活躍しています。



DATA

脳神経センター・7階西病棟

定床：50床

医師：5名 看護師：34名

*写真：センターから東を望む眺望

脳神経センターの今後

今後は、脳科学の研究面で病理診断科、機能回復はリハビリテーション科、末梢神経障害の外科的治療を担う整形外科とも今まで以上に院内連携をとり、脳神経疾患の治療を診療科横断的に担うことが可能な施設となるよう努力していきます。

地域連携を担う中核施設として、地域社会で患者さんの医療、生活を支える開業医の先生、看護師、MSWなどの皆様と、よりよい医療連携の構築をめざし、院外での活動にも積極的に取り組みます。

この脳神経センターは、診療面のみならず看護体制の効率化、患者さんへのサービスアップといったことにも大きなメリットがあります。加えて当院での研修を希望される方々にも、他施設とは異なった有意義な研修を体験することが可能になります。

以上、脳神経センターは新しい組織体制ですので、患者さん、医療スタッフ、開業医の方々からも、ご指導をいただかなければなりません。ご意見などがありましたら、どしどしお寄せいただければと思います。患者さんのご紹介も含め、よろしく願いいたします。



前列右より：田島センター長・瀧上部長
後列右より：田中祐子看護師長・岡副医長・水戸医長

脳神経センター 医師

			医師免許 取得年	専門分野	資格
脳神経外科部門	部長	瀧上真良	昭和60年	脳、脊髄腫瘍手術、脳血管障害一般、血管内手術、下垂体腫瘍、頭蓋底の外科	日本脳神経外科学会専門医 日本脳神経血管内治療学会専門医 日本脳卒中学会専門医
	副医長	岡 真一	平成9年	脳血管障害一般、脳神経外科一般	日本脳神経外科学会専門医
神経内科部門	部長	田島康敬	昭和59年	神経難病の治療とニューロリハビリテーション、免疫性神経疾患、頭痛	日本神経学会専門医 日本神経学会指導医 日本リハビリ医学会専門医 日本脳卒中学会専門医 日本頭痛学会専門医 日本内科学会認定医
	医長	水戸泰紀	平成3年	臨床神経学全般、神経難病の診断と治療、脳血管障害	日本神経学会専門医 日本神経学会指導医 日本脳卒中学会専門医 日本内科学会認定医
	医長	須藤和昌	昭和56年	臨床神経内科学 再来のみ担当	日本神経学会専門医